

第10回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和53年6月7日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1) 技術試験衛星Ⅱ型（ETS-Ⅱ）による電
波伝搬実験結果について
説明者

郵政省電波研究所衛星研究室長

石 田 享

“ “ 鹿島支所第一宇宙通信
研究室長

林 理三雄

(2) その他

4. 資 料

委10-1 第9回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委10-2 技術試験衛星Ⅱ型（ETS-Ⅱ）「きく2号」の
波伝搬実験総合報告

第9回宇宙開発委員会（定例会議） 議 事 要 旨

1. 日 時 昭和53年5月31日（水）
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 ○ インマルサットの現況について
4. 資 料

委9-1 第8回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

委9-2 諸外国における海事衛星の動向

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

網 島 毅

吉 識 雅 夫

八 藤 東 福

斎 藤 成 文

説明者

郵政省電波監理局宇宙通信開発課長

“ “ 無線通信部

航空海上課検査官

“ 大臣官房電気通信監理官室条約係長

関係省庁職員等

科学技術庁長官官房参事官

通商産業省機械情報産業局次長

運輸省大臣官房参事官

“ 気象庁総務部長

金 田 秀 夫

園 城 博 康

武 智 健 二

佐 伯 宗 治

水野上 晃 章

（代理：吉田）

沼 越 達 也

（“：上田）

高 井 重 寿

（“：富樫）

運輸省海上保安庁総務部長

鈴 木 登

（代理：石井）

郵政省電波監理局審議官

門 田 博

（“：飯田）

運輸省大臣官房

藤 井 忍

郵政省電波監理局

九 里 茂

宇宙開発事業団

飯 塚 裕 久

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

堀 内 昭 雄

“ “ 宇宙国際課長

三 浦 信 他

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨

第8回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨について、3頁
吉識委員の発言のあとに、事務局の発言として「その主旨を
常設部会の運営方針（懇談会了解事項とする予定）に書き込
むこととする。」を加えたのち、確認された。

(2) インマルサットの現況について

郵政省電波監理局の金田秀夫宇宙通信開発課長、園城博康
検査官及び電気通信監理室の武智健二条約係長から資料委9
-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行わ
れた。

八藤：何時までに出资日期が整わないと条約は無効になるのか。

武智：来年の9月までに出资日期の95%が確保されないと無効とな
る。

八藤：インマルサット準備委員会は、いつまで存続するか。

武智：インマルサットの第1回総会または理事会が開催されるま

で、或いはインマルサットが発足しないことが確定するまでである。

八藤：インマルサット成立後使用する衛星のうち一個又は二個の衛星を日本が調達するような努力をしているか。

金田：現在のところ、そういう動きはない。

八藤：インテルサットを使用する案の中で、太平洋に二個打上げる計画だが、これは、太平洋を二つに分割して二個の衛星でカバーするということか。

園城：一個が現用、他の一個は軌道予備用である。

斎藤：インマルサットの計画とAMES計画とは別のものか。

金田：AMESは、インマルサットより小型の船舶に通信サービスを供給できるような衛星を開発するための実験衛星を考えている。将来、AMESの開発で得られる技術が国際的な海事衛星システムに寄与することが考えられる。

八藤：エアロサットとインマルサットを一本にまとめようという話があつたがどうなつたか。

武智：現在でも、多目的衛星の開発の1つとしてインマルサットの研究課題となつている。

網島：米国はインテルサットで海上通信もやつてはどうかといつていたが、インテルサット一本でやらない理由は何か。

武智：インテルサットでやらないと決めたわけではなく、米国はインテルサット、インマルサット等オプションをいくつか持つているため、まわりの動向をみながら最も良い方法を採用するという考えのようだ。